

厚木市郊外の『源氏河原』

清水 勝

NHK大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』は三谷幸喜脚本でコメディタッチの前半から、いよいよ木曾義仲と頼朝の争いが始まる。

さて、神奈川県観光協会では「鎌倉殿と十三人の御家人たちのゆかりの地めぐり」を発表している。その中には記載されていないが、厚木と半原と相模湖と吉野宿（甲州路）を結ぶ半原街道に、厚木から十キロに荻野という地がある。そこを流れる荻野川に架かる橋の名が『源氏橋』で、その近くに『源氏河原』の碑がある。何故？

『石橋山の戦い』に敗れた頼朝は山中を逃亡し、真鶴岬から海路にて安房国に脱出した。その逃亡の次善の策として考えられていたのが陸路にて甲斐国に向かい、甲斐源氏（武田信義）と行動を共にするという案であった。その途中にある荻野は頼朝の曾祖父源義親の弟の当たる源義隆（別名陸奥六郎）の所領地であった。その館の地を源氏河原と呼んでいたらしい。

なお、頼朝と別行動で逃亡した北条時政はこの地を通り、甲斐国へ向かい、甲斐源氏と共に駿河に侵攻している（鉢田の戦い）。

鎌倉幕府創設後、源氏河原に家来を駐屯させ、甲斐への連絡所としたという。

近くにある日本三大薬師のひとつ日向薬師には1194年（建久五年）八月八日、源頼朝は、長女・大姫の病氣治癒祈願のため参詣しており、その際に源氏河原の連絡所で昼食をとったようである。

地元の言い伝えによれば、『石橋山の戦い』に敗れた頼朝は源氏にゆかりのあるこの地に落ちのび、源氏再興の地としようと考えていた。風光明媚と周囲を山に囲まれた地で「ここに百の谷戸あらば天下にまたとない要害の地なり」といって、谷戸を数えさせると九十九であった。「一つ足りぬは縁起が悪い」としてこの地を諦め、鎌倉を再興の地としたという。

なぜこんな伝説が生まれたのかは解らないが、北条時政が甲斐に向かう途中で、この地で酒を振舞われ、酔った勢いで頼朝になった気分で戯言を言ったのではないかと、勝手に推測している。

注 日本三大薬師

- ・日向薬師（宝城坊）
- ・愛知県新城市の峯薬師（鳳来寺）
- ・高知県大豊町の柴折薬師（豊楽寺）